

(6) 「アグリ土づくりセンター」の堆肥利用について

いつもアグリ土づくりセンターの牛ふん堆肥をご利用いただきありがとうございます。

さて、JA直鞍では地力低下に伴い水稲、麦、大豆など土地利用型作物の収量が低下していることから、収量の安定をはかるため堆肥や土壌改良材を投入する事を奨めています。

JA直鞍の「アグリ土づくりセンター」が製造する「堆肥」は良質な堆肥として管内・管外からも評価をいただいております。

土壌という大切な資産を守るには、やはり土作りが基本です。

土作りは、良質な有機質の投入が欠かせません。

是非、みなさまにアグリ土づくりセンターの堆肥をご活用下さい。

そして、土作りを基本とした農業を実践して下さい。

「健全な土壌には健全な作物が育つ」

「アグリ土づくりセンター」は、堆肥による土作りを通して、みなさまの大切な資産である土壌の健康づくりをお手伝いいたします。

又、この程アグリ土づくりセンターでは新しいパンフレットを作成しております。

- ①アグリ土づくりセンターが目指すもの
- ②利用者の声
- ③堆肥の製造工程図
- ④価格一覧表

上記等を掲載しておりますのでご覧下さい。

堆肥のご注文に関しては直接「アグリ土づくりセンター」または各グリーンセンターに申込書を準備しておりますので宜しくお願いします。

アグリ土づくりセンター 電話番号 42-1175
住 所 鞍手町室木189番地1

●堆肥価格一覧表

基準日:令和3年11月1日

種類	区分	容量	価格(税込)	備考
水田用堆肥	直取り	1トン	3,500円	
		軽トラ	1,000円	
	配達のみ	2トン	8,000円	
	配達・散布	2トン	1ha以上 9,500円 3ha以上 9,000円	
園芸用堆肥	直取り	1.8㎡	5,000円	
	配達のみ	3.6㎡	12,000円	

●施肥基準量一覧表 (10a当たり)

品目	堆肥量
水稲	2トン
大麦・小麦	2トン
大豆	2トン
ブロッコリー	2トン
キャベツ	4トン
ぶどう	1トン

●堆肥分析検査データ 一般財団法人畜産環境整備機構 畜産環境技術研究所

分析日:令和3年3月15日

分析項目	水分	(pH)	EC(ms/cm)	窒素(%)	リン酸(%)	加里(%)	石炭(%)	苦土(%)	銅(mg/kg)	亜鉛(mg/kg)	鉄(mg/kg)	マンガン(mg/kg)
現物当り	54.3%	7.8	3.8						19	63		
乾物当り				1.9	0.9	2.6	2.9	0.9			8,800	340

JA直鞍 アグリ土づくりセンター

〒807-1307 福岡県鞍手郡鞍手町大字室木189-1番地
TEL0949-43-1175 FAX0949-43-1176



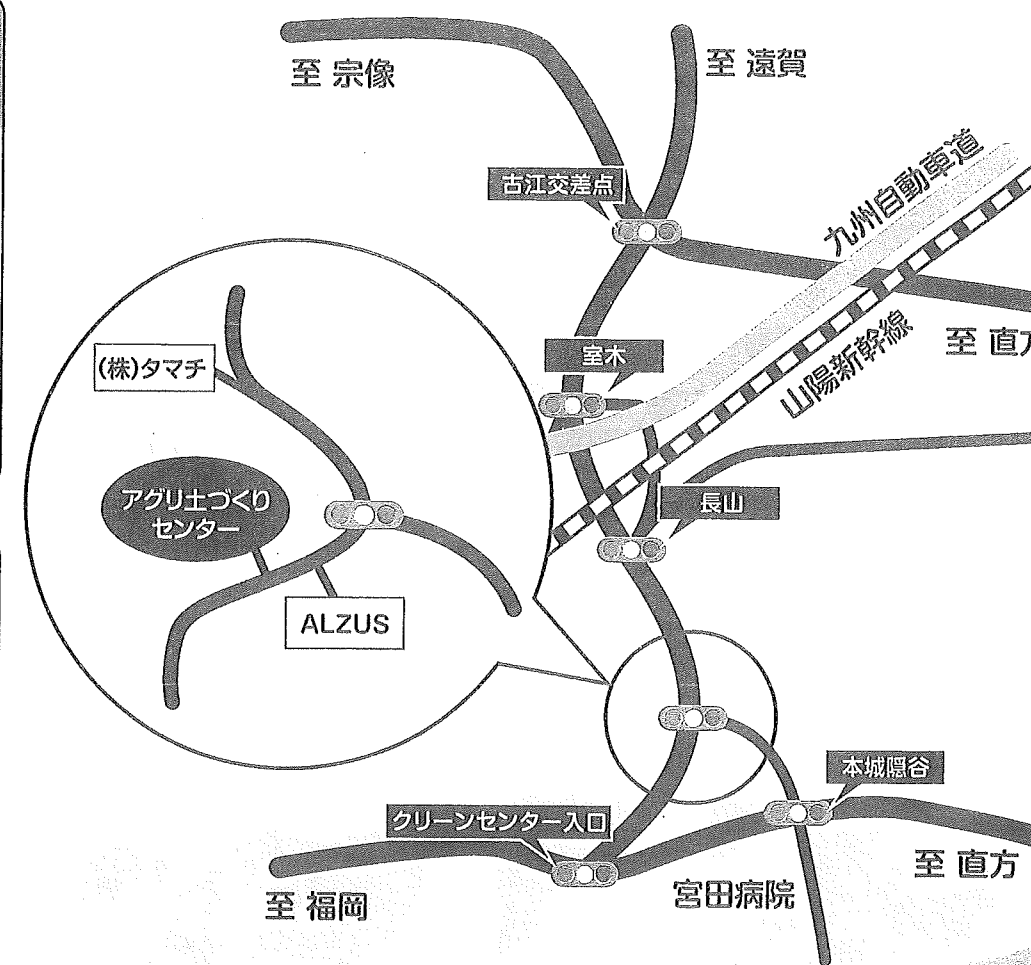
地図はコチラからご確認ください

直鞍農業協同組合

〒822-0022 福岡県直方市知古二丁目3番4号
TEL0949-24-2311 FAX0949-24-2315



地図はコチラからご確認ください



JA直轄は、筑豊北部に位置する直方市・宮若市・鞍手町・小竹町の2市2町を管内としており、北九州、遠賀、宗像、飯塚と隣接する都市近郊型農業地帯で、水稲は県下でも良質米の産地となっております。

主要農作物は、水稲・麦・大豆・ブドウ・いちご・キャベツ・ブロッコリー・トルコギキョウ・畜産と多種多様であり、共同出荷の他、管内に6箇所ある農産物直売所施設で販売しています。

農産物の生産において、近年、化学肥料の多用や災害の多発に伴う耕作地の土壌流失などにより、良質な土壌が失われつつあります。

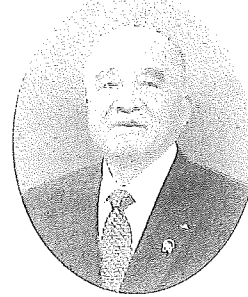
そのような中、農産物の安定した生産力を持続していくには、有機質肥料は欠かせないものとなっています。

「JA直轄アグリ土づくりセンター」は、管内の畜産農家の飼育糞を副資材（パークもみ殻）を70℃以上で上昇させ発酵処理を行うと共に腐熟させ、高品質の堆肥として活用し、農産物の生産基盤である「土づくり」を推進しております。

それにより、利用者の皆さまからも堆肥の品質や評判が伝わり、近隣市町村の利用者も増加し大変よろこばれております。

今後も農業者の皆さまには生産の安定化、品質の向上による所得増大を、消費者の皆さまには「安全・安心」な農産物の安定供給を目指します。

これからも「JA直轄アグリ土づくりセンター」は関係機関と連携しながら、「土づくり」を通じた地域農業の発展に貢献してまいります。



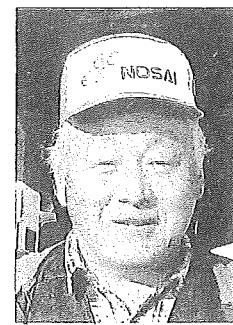
直轄農業協同組合
代表理事組合長 堀 勝彦

JA直轄アグリ土づくりセンターが目指すもの

- JA直轄アグリ土づくりセンターは、管内の畜産農家の飼育糞を堆肥化し、農地に還元する資源循環型農業の推進を通じて、持続的な開発目標（SDGs）を支援してまいります。
- 地域ぐるみの「土づくり」を推進します。
- 腐熟度の高い良質な堆肥の安定供給に努めます。
- 土壌改良効果を発揮するため、利用者へ堆肥の長期連用を推進します。
- 良質な土づくり・作物生産のための肥料設計をしやすいよう、成分の安定化に努めます。
- 低コスト生産を支援するため、価格の低減につとめます。
- 高品質で高収量の農業生産、農業者の所得増大の糧となるような堆肥づくりを目指します。



利用者の声



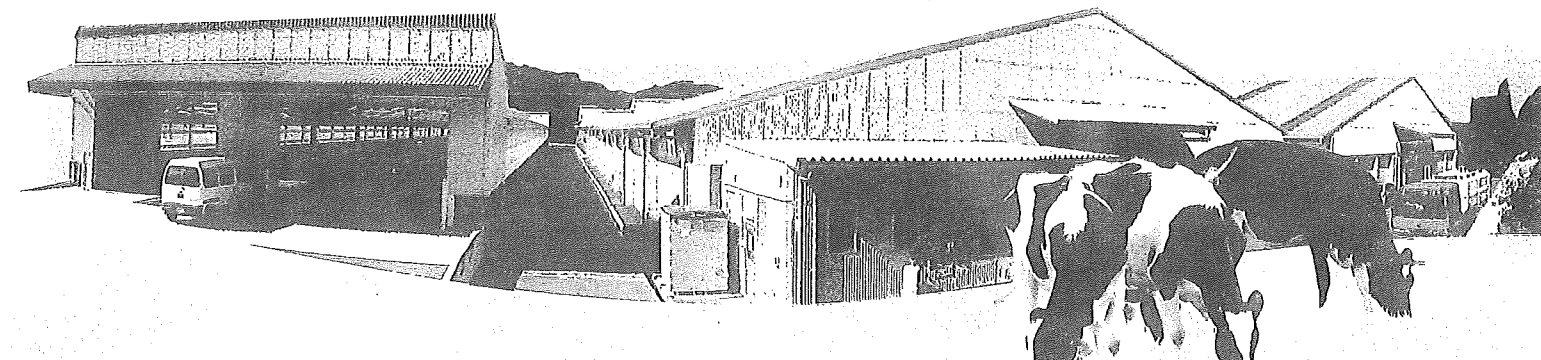
米麦を栽培しています。水田に毎年2トン自分で散布しております。地力が向上し米麦とも毎年安定して収量を上げることができ地力の大切さを実感しています。

小竹町 木原 剛さん



キャベツ、トウモロコシを主に栽培している。堆肥を毎年10a当たり4トン投入し続けているため土壌の団粒化が進み、土に空気の間隙ができることで、柔らかい土に、作物はしっかり根を張り、品質の良い野菜が採れる。

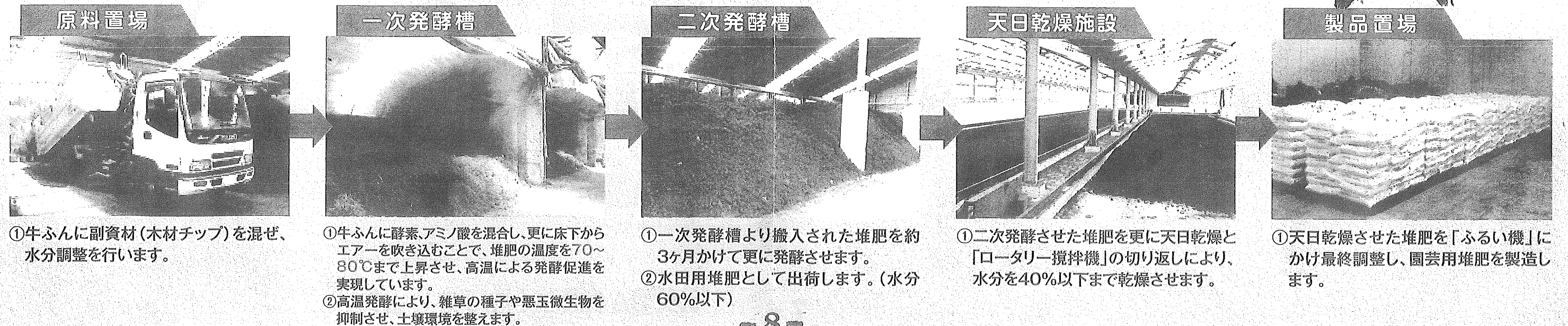
北九州市若松区 松浦 浩さん



堆肥製造工程図

堆肥がどのように作られているかをご紹介します。

JA直轄アグリ土づくりセンターは、平成17年に完成した牛糞堆肥を作る施設です。平成21年には福岡県の堆肥コンクールで最優秀賞を受賞致しました。



毎年300件以上、農作業中の死亡事故が発生しています。

農作業 その前に 安全対策は 万全ですか!?

事故は不意に起るもの!!
安全への備えが重要です!!

安全装備は? Check!

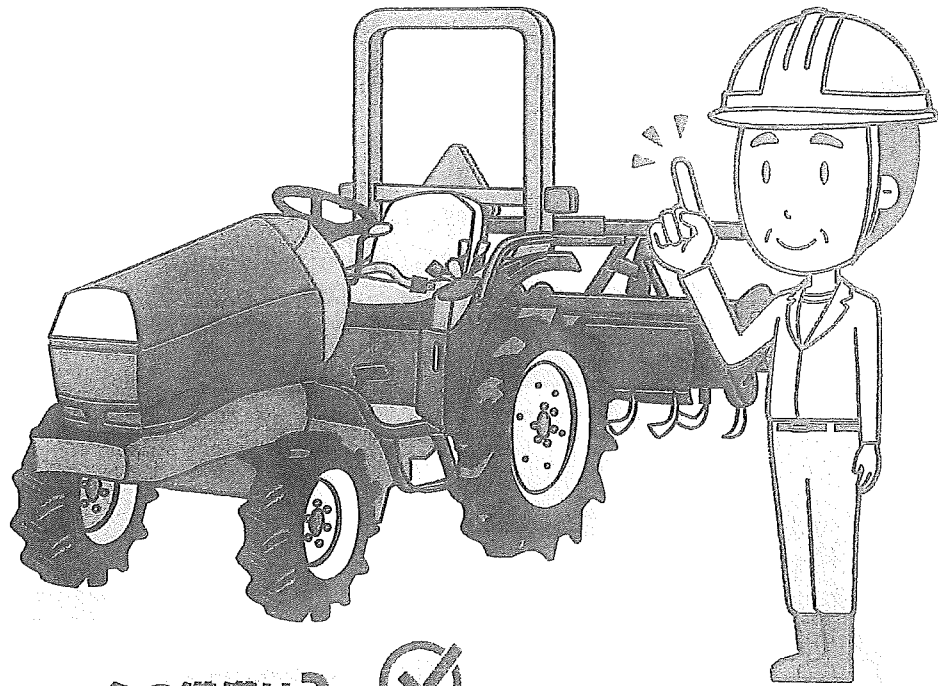
安全フレーム、シートベルト、ヘルメット、側転車マーク、安全カバー等は、もしもの時の事故を防いでくれます。万全の状態で作業に臨みましょう。

道の状態は? Check!

狭い道や坂道、路肩が崩れやすい道では転倒・転落のリスクが高まります。「悪路・タイヤの取られる場所がないか」「道幅は十分か」を確認し慎重に走行・作業をしましょう。

心の準備は? Check!

「これくらいなら大丈夫」との油断が取り返しのつかない事故を招きます。常に安全な操作・作業を心がけましょう。



農業者も労災保険に加入できる制度があります。

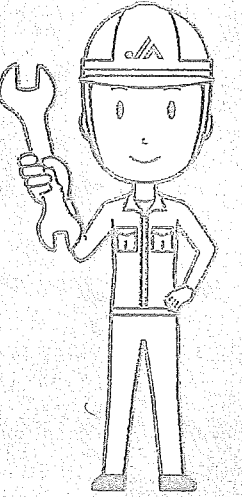
詳細は最寄りのJA・県中央会等にお問い合わせください。

※一部のJA・県中央会については取扱い出来ない場合があります。

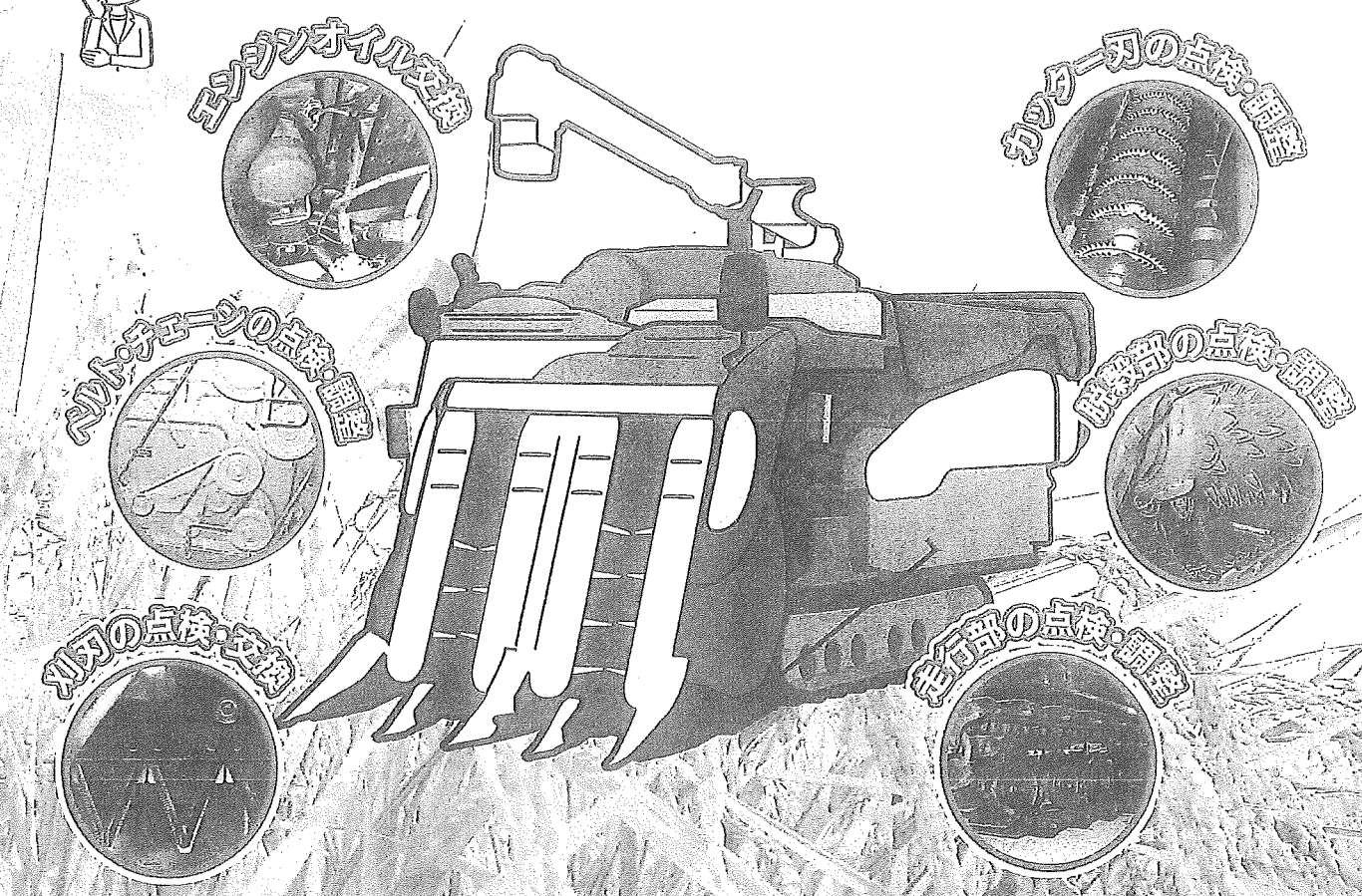
JAグループ / 全農

農作業を安全に行うために! シーズン前に JA農機センターで 点検をしましょう!

シーズン中のトラブル防止
農作業事故防止



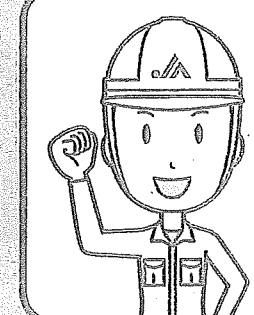
“おかしい…”と思ったら、安全のために早めの点検・整備が必要です!



農業機械を安心してお使いいただくために、ぜひ点検を行ってください。

農業機械のことなら、 JA農機センターにお任せください。

農家の皆様とのコミュニケーションや情報提供の場としてもご利用いただいております。お近くのJA農機センターへ、どうぞお気軽にお越しください。



守ろう農薬ラベル 確かめよう周囲の状況

周りに配慮して 飛散を防止

守ろう
農薬ラベル
確かめよう
周囲の状況

ラベルの確認

適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数
トマト ミニトマト	コナジラミ類	2000～ 3000倍

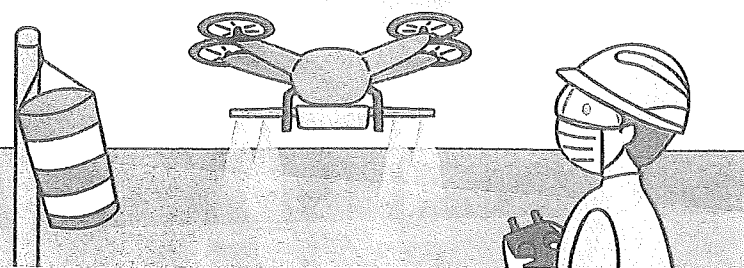


帳簿に記録

周辺への配慮



飛散の防止



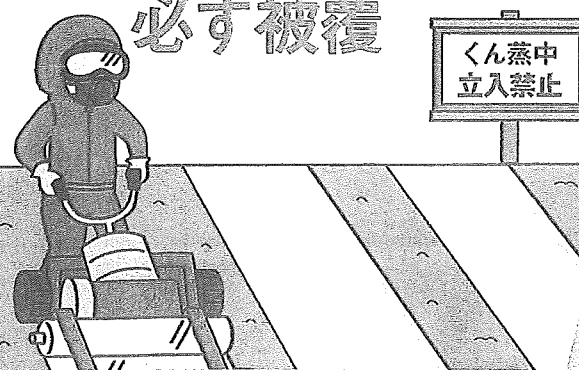
周囲の状況を踏まえて
使う農薬や使い方を考えよう

周りに影響が少ない
天候や時間帯に行おう

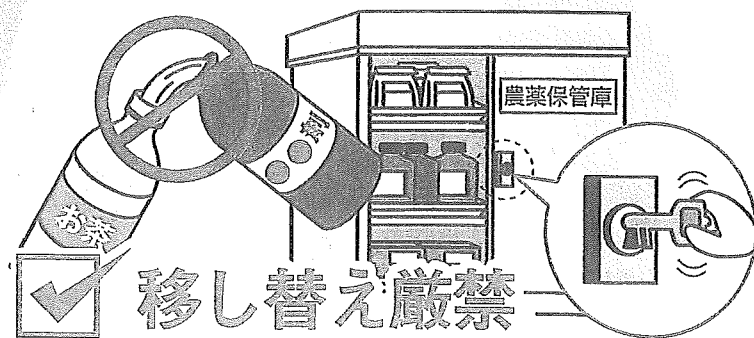
散布機器の機能や性能を
理解し、正しく使おう

十分な時間の余裕をもって
幅広く周知しよう

土壌くん蒸剤は 必ず被覆



施錠して保管



農薬散布のお知らせ
〇〇年〇月〇日 〇時～〇時
場所〇〇〇〇 目的〇〇〇〇
農薬名〇〇〇 連絡先〇〇〇

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/

農業の適正使用 農林水産省

検索



詳しくは
こちら

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/

農業の適正使用 農林水産省

検索



詳しくは
こちら

(9) 令和5年度 無人ヘリ防除散布規定及び同意申込書について (宮若地区のみ)

(農協提出)

【無人ヘリ防除散布規定】

(1) 受託の制限について

- ① 防除隣接地に民家や公共施設がある場合は防除の同意を必ずとる事。(チラシ配布)
※散布時に苦情やクレームがあった場合は防除を中止します。その場合は、地区役員及び立会人で対応をお願いし、解決後再会するか後日行うかは立会人と協議し決定致します。
- ② 散布面積の制限については、おおむね3ha以上の同一品種の集団とする。
※特に山間地は同一品種に統一する。
※作付品種にバラツキのある地区は、散布料金の1割増しとします。
- ③ 元気つくしの防除については、夢つくしの時期かヒノヒカリの時期に合わせる。
※但し、適期に防除を希望される地区は、組合単位で統一し散布料金は1割増しとします。
- ④ 散布ほ場が防除作業に適していない場所は受託しない。
※作付面積が少ない品種は多い品種に合わせるか、散布料金の1割増しとします。
- ⑤ 防除回数は1回目・2回目は組合単位で統一。個人単独での引受はしない。
※1回目が一斉防除(7月下旬頃)・2回目が出穂～穂揃期防除
但し、病害虫の発生が多い時は、2回目の防除を早める事もあります。
- ⑥ 散布隣接地に水稲以外の農作物がある場合は引受はしない。
※ポジティブリスト制度に伴う防除対策
- ⑦ 散布終了後、立会人は防除確認で旗の回収または倒す作業を行って下さい。
- ⑧ 防除時期及び栽培基準は、JA・普及センターの基準に基づく。
※田植時の箱施薬は必ず使用する事。
- ⑨ 防除代金の決済(10月に指定口座より引落とし致します。)

※ 注意事項

無人ヘリ防除に伴う、農薬の飛散や騒音に対する苦情、また、電線・支線等の障害物で安全に飛行が出来ないほ場や、作付品種にバラツキが多く団地化になっていない地区が多い。
つきましては、下記の場合は散布をお断りする場合や中止する事がありますのでご了承下さい。

- ① 防除に対する苦情が出た場合は中止します。
- ② 防除に支障がある場所 (民家・電線・支線・山林・竹林等) が隣接しているほ場は、引受出来ない事があります。
- ③ 利用料金が未納の方は引受致しません。

(2) 散布体制について

- ① 散布当日は、必ず立会人が防除の確認を行い防除旗を倒して下さい。
- ② 散布区域並びに地区住民、施設等への連絡は必ず行って下さい。
- ③ 苦情等は、地区代表者(農事組合長)で対応お願いします。
- ④ 散布圃場には、早期・普通期の品種別の旗を防除前に立てて下さい。
- ⑤ 防除日前までに、畦畔の草刈りを行って下さい。

(3) その他

- ① 防除代金は、10月中旬に決済致します。
- ② 散布時期及び防除代金については、令和4年度の実績です。

品 種	一斉防除(1回目)	出穂～穂揃期(2回目)
早期米	—	7月13日～16日
夢つくし	7月20～21日	8月 4日～10日
元気つくし		8月17日～19日
ヒノヒカリ		8月24日～25日
防除代金	3,010円/10a	早期 3,610円/10a 普通期 3,720円/10a
対象病害虫	いもち病・紋枯病	いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類

※割増料金が、発生した場合は1割増しとなります。

- ③ 防除申込書提出頂いた組合は、代表者会議にて取りまとめを致します。

農作業の省力化と、集団防除効果の向上を目的に実施するため、散布規定を遵守し同意の上申込み致します。

令和5年度 無人ヘリ防除散布規定に基づく同意申込書

農作業の省力化と、集団防除効果の向上を目的に実施するため、散布規定を遵守し同意の上申込み致します。

記

令和5年 月 日

大農事組合名 _____ 農事小組合名 _____

住 所 _____

電話番号 _____

大農事・小組合長名 _____ 印

※ 必ず防除の申込みは、大農事組合単位でお願いします。
尚、個人での申し込みはお引受できません。

※ 提出日 6月1日(木)

※ 提出先 営農生活課または、若宮・宮田グリーンセンターまで

切
り
取
り
線

4. 経済農機課からの連絡

(1) 大型特殊免許（農耕車限定）の取得状況・今後の取り組みについて

令和4年度は48名受験し、43名取得しております。令和5年度は令和4年度の申込で50名ほど抽選に漏れた方を対象に教習・受験検定を行いますので、令和5年度の新規申込は行いません。対象者の方には別途ご案内をいたします。

なお、令和6年度の教習・受験検定については、日程が決まりましたらご案内させていただきます。